

鎌倉市図書館が目指すべき将来像の確立についての陳情

1. 陳情の要旨

本年 7 月の鎌倉市図書館協議会において、4 館ある地域館のうち 2 館の正規職員を 3 名から 1 名に縮減し、非常勤嘱託員中心の運営体制に移行する旨の答申が出された。地域館の運営に関する答申であるにもかかわらず、そこには目指すべき地域館像の提示がなく、鎌倉市図書館の将来に不安を覚える内容になっている。今後の図書館運営のよりどころとなるような鎌倉市図書館の目指すべき将来像（ヴィジョン）の確立を求めたい。

2. 陳情の理由

昨年 7 月 9 日の図書館協議会において、図書館長より図書館の運営体制の変更案が諮問された。それは「図書館業務の効率化とサービスの向上」のために地域館 4 館の職員を縮減し非常勤嘱託員を中心とした体制に移行するというものである。

昨年度に 4 回行われた協議を経て、上記のような職員削減案が答申されたが、そもそも鎌倉市の地域館はどうあるべきかという基本的な論議が 4 回の図書館協議会において十分なされておらず、答申のなかでも「財政事情」と「効率化」という視点からの説明が基調となっている。そのため正規職員の縮減によってサービス低下につながるのではないか、危機管理面でも大丈夫なのかという不安や疑問に対しても説得力のある記述にはなっていない。

鎌倉市の図書館の大きな特徴は専門職集団としての職員の力量の高さと、図書館サービスにおける地域館の果たしている役割の大きさにある。もし答申どおりの施策が実施されると正規職員の縮減と地域館の弱体化によって市の図書館全体にマイナス効果をもたらすおそれがある。

図書館が実施するさまざまな施策は目指すべき図書館の全体像の中に位置づけられ、その必要性が明確になることで、より効果的で説得力のあるものになるはずである。わかり易くて魅力ある鎌倉市図書館の将来像(ヴィジョン)を一日も早く確立すること、そしてそのためのプロジェクトを設置することを求めたい。

平成 28 年 9 月 6 日

提出者 鎌倉市 笛田 5 丁目 21 番 12 号
図書館とともだち・鎌倉
代表 和田 安 弘



鎌倉市議会議長 中 澤 克 之 様

